

膝

行

能村 研三

大量得点の裏には

コロナ禍が幾分収まりかけている
せいか、このところ「沖」の例会句
会に多くの方が参加するようになって
きた。大変うれいことである。
多くの人が一堂に会せる句会の醍醐
味といったものをひしひしと感じる
ことができる。

菜の花の上に沖あり安房の国
渾身の闇が咲かせる白木蓮

句会でも、点の入る句は一句に十
数点という大量得点となる場合があ
るが、こういう句の場合は、句を誉
める前に、まず逆選の方の意見を聴
くことがある。
大量得点を取るぐらいの作品であ
るから、リズムが整っていて確かに
口あたりがよい句なのである。

春愁や音をこぼさぬ砂時計

また類想類句に気づかず、多くの
人が使うパターン化した句を選句し
てしまう場合がある。

ややありてより春雷と気づきけり

いろいろな俳句大会では、優秀賞
に選ばれた句が、かつての類想類句
ではないかを慎重に確認する作業が
行われる。俳人協会には類句検索シ
ステムというものがあってただちに

花筏こはさぬやうに鶺鴒の滑走

それを見つげ出してしまふ。
口あたりの良いフレーズであると
選句者も心を動かされやすいものな
ので、特に誰もが目にするもの、誰
でも思いつくような発想の句は要注
意である。

黙読のときをり声や花ぐもり

類想や類句を避けるにはどうした
らよいだろうか。それには句集・俳
誌・総合誌などを「多読」して、多
くの句会に出て、誰でも思いつくよ
うなことや類想が多い句材を知り、
意識してそれを避けるように努める
ことで、同時に句の独自性、意外性
を高める努力も欠かせない。

戻りきし本に折りぐせ養花天

類想類句に陥る一因としては、「俳
句らしさ」にこだわりすぎるパター
ンもある。

膝行の仕草で坐る花筵

先師の登四郎は「本当のうまい俳
句はうまさが目立たないものであ
り、すぐれた技巧は一見無技巧を思
わせるものであることを知らなくて
はならない」(「能村登四郎読本」能
村登四郎語録)と言っている。

桜蕊降りつぐ雨の金曜日

暮の春間口の狭き画材店

能村 研三